

## 第8話

いつも私のコラムをお読み頂きまして有難うございます。



私達美容師の使命はおお客様のヘアデザインやヘアケア、最近ではメイクアドバイスやスキンケア、ヘルスケアまでお客様の美に関することに携わらせて頂くお仕事ですがそんな中で何ととっても醍醐味はそのお一人お一人にとってオンリーワンな存在になり得るということだと思っております。お客様に気に入って頂いて喜んで頂き、「今度からもお願いするわね」とおっしゃってまた指名して頂いてご来店頂いた時ほど嬉しいことはありませんし、それから長きに渡り担当させて頂き共に年を重ねることは本当に美容師冥利に尽きると思います。

私にもオープン当初からご来店のおお客様や独立前からさせて頂いているお客様が数名いらっしゃいますが、そのうちのお一人で25年くらい担当させて頂いている方がちょっと前にお越し頂いた時に徐に「私ね、ここに来るのは今日が最後のな」とおっしゃいました。前からお伺いしていたのですが伊丹市からお越しいただいているお客様で、旦那様の御容体が悪く美容室にお越しになる少しの時間でも目が離せない状態だそうですがそれでも無理をして通って頂いていたのですが最近更に悪くなり、旦那様に頼まれたのもありお住まいのお隣の美容室に行くから…と言う事でした。勿論無理やりお越し下さいとは言えず、25年間のお付き合いに終止符が打たれたのでした。

そうかと思えばそれだけ長いお付き合いになるとご本人の御容体も芳しくない方も当然多くなってくるわけですがそんな中、来られるはずの方が来られなくなるともしかして…と心配になったりしている矢先に町でぼったり歩いていらっしゃる姿を見かけると、「あっ、お元気なんですね」と嬉しいような悲しいような…事もあったりするわけです。

オープンしてまだ3-4年くらいの時こんな出来事がありました。当時、ある常連様がいらっしゃいまして頻繁にご来店頂ける本当にお洒落な方でご年齢は70歳くらいの方でしたが、ある日体調を壊されて入院されてしまいました。入退院を繰り返し退院されたらその足ですぐご来店され施術中もご病気なのに気さくに楽しいお話をされて帰られるのですが、また少しすると入院をされ退院されたらまたすぐに来られたりを繰り返しているうちにとうとう長期入院になったかと思うと今度は病院を抜け出して車椅子にパジャマ姿でご来店されることもありました。

そんなある日、とうとう病院から外出禁止令が出たのか僕が病院に向向いてカットをしてくれないかと言われました。当時は家内とほとんど二人でしていた時期で朝から晩まで死に物狂いで働いており、休みの日も講習などにも行ったりしていたので正直いくら常連様でもお断りしたい気持ちでいっぱいでしたが、シザーとスタイリングの道具を持って指定された時間にシブシブ病院に向向いたらちょうど検査か何かしている最中でしばらくかかると看護師の方に言われ、僕はその時少し迷ったのですが指定された時間に来たのだし来たという事実さえあればまた今度でいいかと思いついてしまったのでした。

が僕はそれから二度とその方のカットをすることは出来ませんでした、お亡くなりになったのです。

あの時、そのお客様にもっと愛情を注いで待ってあげていたら…  
今でも忘れるこの出来ない後悔の一つです。

まだまだ未熟 な会社ですがこれからも末長くよろしくお願い致します。